

埼玉県総合リハビリテーションセンターだより

発行：埼玉県総合リハビリテーションセンター
〒362-8567 埼玉県上尾市西貝塚 148-1
TEL 048-781-2222

＜今号の内容＞

- 障害者支援施設を訪問して……………1
- 新規採用医師紹介……………2
- 感染防止について（就労移行支援編）……………3
- パラリンピック聖火ランナーのご紹介……………4

※お知らせ：

例年秋に開催していた「センターまつり」は、今年度も新型コロナウイルス拡大防止のため中止とします。

障害者支援施設を訪問して

【新型コロナウイルスによる感染拡大を防ぐために】

令和2年6月から12月にかけて、県内12か所の障害者支援施設を医師・看護師のチームで訪問し、新型コロナウイルスに対する感染防止対策についてアドバイスを行いました。障害者支援施設を利用している方々は、様々な障害により、自分自身で感染から身を守る行動をとることが難しい場合があります。そのため、施設内に新型コロナウイルスを持ち込まないことが最大の感染防止策となります。各施設が様々な対策・工夫に取り組んでいましたが、共通した課題がありました。実際に訪問アドバイスをを行った内容を紹介いたします。

【改善のポイント「食事の場面」】

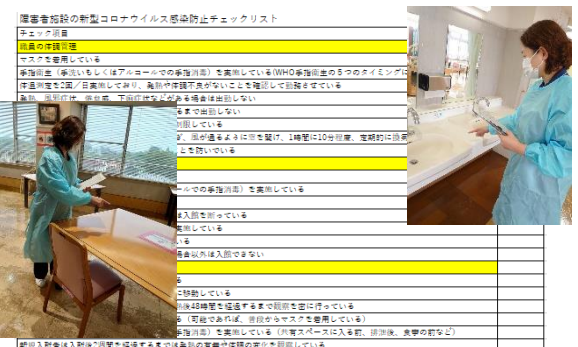
利用者の方々が食堂に集合し、一斉に食事をする施設が多くありました。食事場面では、ムセによる飛沫が生じやすく、マスクを外しているため周囲の人が飛沫を吸い込む可能性が高くなります。そのため食堂の席の間隔を開ける、正面の向かい合わせの席を作らないなど、密にならない工夫が必要になります。利用者の方々を時間差で食堂に誘導し、工夫をしている施設もありました。また、食事介助を行う場合、飛沫が目の粘膜に付着しないように、職員がゴーグルやフェイスシールドを装着することをアドバイスしました。利用者の方の正面から食事介助を行うと、飛沫を浴びる機会が多くなってしまいうため、横から食事介助を行うようアドバイスしました。

【改善のポイント「職員の休憩室・仮眠室」】

施設内で暮らしている入所利用者とは比べ、施設外から通勤する職員はウイルスを運んでくる可能性があります。そのため、職員が利用する場所の感染対策も重要です。職員が食事をする休憩室は同時に利用する人数を制限し、テーブルや椅子などは使用前後に消毒が必要です。休憩室が足りない場合は、時間差で休憩に入ることや会議室等を休憩室に利用するなどの工夫をします。マスクを外す休憩室や更衣室では気が緩みがちになりますので、職員同士がマスクを外して会話をしないよう注意します。また、夜勤の職員が利用する仮眠室の寝具は、職員の利用ごとにシーツやカバーを交換するようアドバイスしました。

新型コロナウイルスに負けないために！

新型コロナウイルスに感染し発症すると、高熱や呼吸の苦しさだけでなく生命も脅かされ、様々な後遺症に悩まされる可能性があります。ひとりひとりが「新しい生活様式」を実践し、感染から自分自身を守っていかれたらと思います。



新規採用医師紹介



氏名：渡邊 充 【わたなべ みつる】

職名：医長

診療科目：脳神経外科



6月より赴任しました、脳神経外科の渡邊充です。東京都出身のネコ好きです。山登りと写真が趣味ですが、最近コロナの影響で登れておりません。

埼玉県は小児医療センターや川口市立医療センター等での勤務経験があり、比較的馴染みのある勤務地ですが、上尾市は上尾駅周辺しか歩いたことがありませんでした。少し気候が良くなったらリハビリテーションセンター周辺の散策を試してみようと思います。

前任地の大学では脳深部刺激療法や脊髄刺激療法等のニューロモデュレーション治療や、MRI等を用いた脳機能画像・電気生理学的な術中脳神経モニタリングなどの手術支援、手術部位感染等を専門として診療・研究・教育を行ってきました。これまでの経験を活かしてリハビリテーションセンターでの診療を行っていききたいと思います。



私の所属する大学医局では比較的短期間で異動することが多いのですが、今回赴任に当たり作成した書類で、大学に98か月連続で勤務していたことが分かり自分でも驚きました。急性期病院での勤務が続いていたため、久しぶりの異動とリハビリ病院での勤務を楽しみにして参りました。

患者さんがリハビリをしている様子を初めてじっくりと診ることができており、非常に有意義な経験ができています。皆様のご指導よろしくお願いいたします。

氏名	卒業学校	出身医局	資格	研究・専門領域
渡邊 充	日本大学	日本大学医学部 脳神経外科	脳神経外科 専門医	機能神経外科 電気生理学、脳機能画像

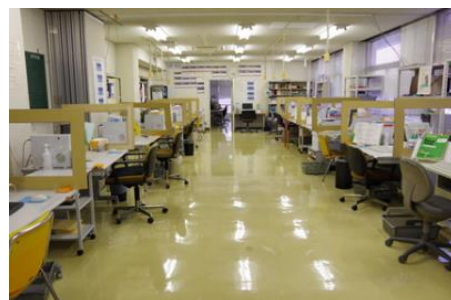
感染防止について（就労移行支援編）

当センターの就労移行支援は、障害のある方の一般就労を目指して「職業能力訓練」と「就労支援」の両面から支援を行っています。新型コロナウイルス感染症（COVID-19）が猛威を振るうなかであっても、安心してご利用頂けるように様々な感染対策を実施しています。

① 訓練における感染対策

●パーテーションをデスクごとに設置

パーテーションは職員の手作りです。普段は消毒して使用していますが、汚染がひどい時はすぐに交換できるようにしています。



●専用のパソコンを用意

情報処理訓練のパソコンは1人1台で使用して頂いています。

●消毒と換気の徹底

訓練で使用した物品は、職員が消毒しています。また、各所に消毒液を設置し、利用者の皆様にも手指消毒のご協力をお願いしています。また、休憩時間ごとに換気を必ず行っています。



●健康管理の徹底

職員は朝・夕の検温を実施。PCR検査を月2回受けています。利用者様にもセンター通所時に検温して頂いています。

●在宅訓練の実施 ご希望の方には在宅訓練も実施しています。

② 就労支援における感染対策

●WEB面接の活用

WEB面接の環境を整えており、積極的に活用しています。

●面談環境の整備

面談はパーテーションを設置した面談室で、換気を行いながら実施しています。



●移動はできるだけ公用車を使用

パラリンピック聖火ランナーのご紹介

元 当センター利用者で東京2020パラリンピック聖火リレーのランナーを務めた奥山 貴浩さんに、きっかけや感想などを伺いました！



自己紹介

2013年10月に仕事で重量物の下敷きとなり、脊髄損傷で両下肢全廃となりました。同12月にセンターの病棟に転院した後、隣の自立支援施設に入所しました。

ケガをする前からスポーツをするのが好きだったので、何かできるパラスポーツはないかと模索しました。フライングディスクと出会い、一生懸命練習をして2018年に全国大会に出場することができました。

現在はバドミントンに興味を持ち、練習をしています。

インタビュー

1 聖火ランナーに挑戦しようと思ったきっかけは？

苦勞を掛けてしまった家族や知人、障がい等で不安を抱えている人たちに、明るく元気な姿を見てもらい、元気を分け与えられたらと思い応募しました。

2 実際に走ってみての感想を教えてください。

聖火を受け走り出し、「わ～楽しい～」と思っているうちに100mを走り終えていました。後から、一生の思い出になったと実感しました。

3 最後に伝えたいことをどうぞ！

少しでも興味を持ったパラスポーツに参加して欲しいです。
なぜなら、そこには自分と同じような障がいを持っている人が元気に活動しています。それを見るだけでも元気や勇気を分けもらえると思うので、ぜひ一緒にパラスポーツを楽しみましょう！



東京2020パラリンピック聖火リレー概要

開催日：令和3年8月19日（木曜日）

コンセプト：Share Your Light あなたは、きっと、誰かの光だ。

速報！！ 当センター利用者の菅野浩二選手が、東京2020パラリンピック大会の車いすテニス・クアードダブルスで銅メダルを獲得しました。おめでとうございます！ 次号（12月号）でご紹介予定です。